

学域横断的プロジェクト入門《2024》

#4 グループワーク3：リサーチ・プロポーザル

荻谷 千尋・田中 千晶・中野 正俊

3, Jul, 2024

I. 前回の振り返り

- 前回の「授業の感想」（別紙参照）

II. リサーチ・プロポーザル

- 別紙参照（ファイル）
- グループで一枚（一ファイル）を入力して提出

1. スケジュール

- ドラフト：7月24日（水）
 - 印刷したものを授業に持参（ファイル提出を求める場合は別途指示する）
- 最終成果物：8月9日（金）23:25

2. 留意点

Note

4を除き、詳しくは次回以降、説明します

- 以下のいずれも、字数を埋めること自体を目的としないこと

(1) 研究タイトル

- できるだけ具体的に書くこと
- サブタイトルを効果的に使うこと
- 吟味したキーワードを組み入れること

(2) 研究の概要

- 英文アブストラクトには、型がある
 - 目的、方法、予想される結論は必ず書く
 - 背景をダラダラと書かない
- 専門用語は、英語の辞書に載っていないかもしれない
- 日本に特殊な制度、現象などの用語も、載っていない可能性がある
 - （だからといって）勝手に、適当な英訳をしないこと
- ➡ 類似したテーマの英文アブストラクトを探し、それを真似ること

(3) 研究目的（リサーチクエッション）

- 疑問副詞をうまく使い、何を明らかにしようとしているのか（何を明らかにしようとはしていないのか）を具体的に記入すること

(4) 先行研究の考察

- ディシプリン、サブディシプリンを意識したうえで
 1. 誰がどのような研究をして
 2. 何をどこまで明らかにしてきたのか

3. 何が明らかになっていないか

- について、漏れなく、そしてバランスよく記入すること

(5) 文献リスト

- 文献リストには研究領域ごと（学会誌ごと）に体裁がある
 - リサーチ・プロポーザルを書くに当たって、もっとも依拠した文献の体裁を真似ること

III. ルーブリック

ルーブリックとは、論文やレポート、プロジェクト、フィールド経験、演技その他を評価や採点する際に適用する基準を明記した、リストまたは図表である。科目の成績評価の公平性や客観性、厳格性を増大させるとともに、学生への事前提示やフィードバックを通して日常的な形成的評価をする際にも有効とされており、近年、教育現場でのルーブリックの導入が進められている（中島梓 (2017), 199ページ）

- 別紙参照

IV. グループワーク

- リサーチ・プロポーザルの提出を念頭に、あらためて研究テーマ、先行研究、スケジュール、分担について話し合い、作業を進めて下さい

V. 次回までの宿題

1. 授業の感想

回答先と締め切り

- 回答先：Google Forms
- 締め切り：2024年7月7日（日）23時59分

2. リーディングアサインメント（予習）

- 戸田山和久『最新版 論文の教室』（NHKブックス、2022年）
 - 「論文にはダンドリも必要だ」（75ページ「卒論での問題の絞り方」-78ページ「問題の絞り込みに費やされるのがふつうだ」まで）
 - 「論文の種としてのアウトライン」（133ページ「漠然とした問題から明確なアウトラインに至る方法」-148ページ図まで）

Note | 摘出先と締め切り

- 提出先：Google Forms
- 締め切り：2024年7月7日（日）23時59分

引用文献

中島梓 (2017) 「アカデミック・ライティング教育科目におけるルーブリック使用の成果と課題：立命館大学映像学部における事例をもとに」, 『立命館高等教育研究』, No.17, pp.199-215. Available at: <http://ci.nii.ac.jp/naid/40021197985/>.